

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 栃木県宇都宮市立一条中学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒320-0842
栃木県宇都宮市京町9-25
 (※平成28年8月24日より現住所に移転)

E-mail ichijo-j@ueis.ed.jp

Website <http://www.ueis.ed.jp/school/itijo-j>

児童生徒数 男子 232名 女子 199名 合計 431名
 (平成29年3月現在)

児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

①「地域ぐるみの防災訓練」活動

本校はESD教育の柱の一つとして、地域ぐるみの防災教育に力を入れており、防災や生命尊重の意識を高める活動を、教育課程に位置づけて実践している。今年度は新校舎への移転後の実施となり、まだ十分に慣れていない環境下での活動ということで生徒達の防災への意識も高く、充実した活動が実施できた。

主な活動としては、地震や火災、竜巻などの自然災害を想定した避難訓練を実施している。今年度は新校舎移転後に、改めて避難経路を確認するねらいで複数回実施したり、近年被害が増加している突風・竜巻を想定した避難訓練も行ったりするなど、新しい取り組みを導入した。実施事前指導として、自然災害に関するDVDを視聴し、災害に関する基本的な知識を確認する時間を設けている。自然災害は地震や雷、竜巻、集中豪雨といった近年注目を集めている自然災害などについても学習する機会を設けさせている。家庭科の授業では、いざというときに役立つ防災バッグづくりを行い、家庭の防災用品の有無や管理について生徒自身に主体的に考えさせている。委員会活動においても、BFC（少年消防クラブ）の委員会を設け、生徒に避難訓練や防災訓練活動の司会進行を任せるなど、主体的な活動となるように工夫しており、学校教育全体で活動に取り組んでいる。

10月に実施する「地域ぐるみの防災訓練」の際には、宇都宮市の消防署や消防団、JRC栃木支部、地域の方々に協力をしていただき、様々な防災、救急活動を体験する活動に取り組んでいる。具体的には、消火訓練としての消火器の使用やバケツリレーの体験、煙道体験、起震車への試乗体験などを行った。人命救助の観点からは、AEDの使用訓練の講習を受け、実際に訓練用の機材を使っただけの訓練活動を実施した。消防署の方々には、災害時に建物に取り残された場面を想定しての救助訓練の様子を披露していただいた。BFC委員会所属の生徒も一部活動に加わり、救助現場の一場面を想定した活動ができた。

活動終了後には、地域の方々の協力をいただき、炊き出しを体験する機会を設けた。生徒も炊き出しに参加したり、食事を受け取ったりといった活動を経験し、災害にあった状況を想定することができたように感じられる。いかにして災害被害を抑える工夫を日々の生活の中で考えていくのかが課題であるが、活動を通して、防災への意識が高まった。

②夏季休業中における宇都宮城主戸田家墓所清掃活動

本校の学区には宇都宮城主戸田家の墓所がある。夏季休業中に、参加者を募り、地域の貴重な歴史遺産である墓所の清掃活動を行っている。今年度は平成28年7月23日（土）に実施した。本校の生徒はボランティア活動に積極的であり、参加意欲も高い。学校の近くには宇都宮城跡地の城址公園がある。年間を通して、様々な催し物が開かれており、多くの生徒が日常的に郷土の歴史に親しんでいる。将来における持続可能な社会の形成を考える上で、その担い手である生徒たちが過去の歴史、地域の環境保全のあり方につ

いて学ぶことはとても重要なことであると考えられる。この清掃活動を学校の教育活動の実践として位置づけることで、生まれ育った地域についての関心が高まり、郷土を愛する心の育成が期待できると考えられる。

活動に参加した生徒は早朝より熱心に清掃活動に取り組み、その表情からは充実感や達成感を感じている様子が見られる。次年度以降も継続して活動を推進し、地域の環境を守る実践意欲や郷土史についての学習を日常の教育活動に位置づけるなどの取り組みを行い、将来社会への展望を生徒たちに考えさせていきたい。

③環境教育クリーンアップキャンペーン（地域清掃活動）

本活動のねらいは、地域の美化活動を行うことによって、地域社会に貢献しようとする態度を育て、勤労の精神を養うことである。今年度は11月26日（土）に本校及び中学校区の小学校や地域の道路、公園などの清掃活動を実施した。生徒たちは出身小学校や中学校に集まり、敷地内や学校近辺の清掃活動に取り組んでいる。本活動は、宇都宮市立一条中学校区内小学校と連携した取り組みとして実施しており（宇都宮市立西小学校、宇都宮市立西原小学校、宇都宮市立宮の原小学校）、PTAや地域協議会の方々の協力を得て活動している。生徒にとっても、卒業した小学校を訪れ、小学生やお世話になった小学校の先生方、保護者や地域の方々とともに活動をすることで地域社会の一員としての自覚をもつことができる。また、今年度は夏に本校（一条中学校）が新校舎の建築に伴い、学校を移転することになった。新しい学校生活に慣れていく中で、旧校舎への思いを引き継ぎながらも新しい環境を大切にしていこうとする態度を育てていくことも本活動において重要なねらいと考えている。

主な活動内容は校庭の落ち葉掃きや用水路の清掃などが中心である。西小学校においては近くの商店街通りまで移動し、道路に付着したガム取りを行っている。生徒たちは進んで汚れている箇所を見つけ、熱心に活動していた。落ち葉掃きにおいては、竹箒や熊手、テミなどの清掃道具を使用し、多くの落ち葉を集めることができた。集めた落ち葉はゴミ袋に入れ、指定の回収場所までリヤカーや一輪車を使いながら協力して運ぶことができていた。予定していた場所の活動が一段落すると、すぐさま別の清掃場所へ行き、手伝う生徒が多く見られた。生徒の主体性をのばす活動としての効果も感じることもできた。

活動後の閉会式では、小学生、中学生ともに活動の感想を発表する機会を設けた。小学生からは学校や地域をきれいにすることができた喜びと中学生への感謝の気持ちが言葉として表れていた。中学生からは、自分たちの生活する地域を多くの人々と協力して整備することができた達成感と地域社会で暮らす一員としての自覚ある発言を聞くことができた。継続事業として、毎年活動を実施することで小学生の児童が中学校へと進学し、再び母校に戻って活動に参加する体制の構築が、持続可能な地域社会の形成につながると考えられる。

④平和学習

本校では、平和学習に全校体制で取り組んでいる。宇都宮市は、昭和20年7月に本土空襲を受け、大きな被害を被った。本校は市内の中心に位置しており、空襲の被害にあった地域に立地している。しかし、戦後70周年を迎え、当時の様子を知る方々も高齢になり、将来世代に伝えていく機会が減ってきている。戦争の惨禍をくり返さないためにも、生徒たちに戦争の悲惨さを知って

もらい、二度と戦争を起こさないという強い自覚をもたせるためにも平和学習を推進していく必要がある。そこで、平和学習として全校生徒を対象とした平和に関する講話と第2学年の生徒を対象に県内の被爆体験者による語り部講演会を実施した。

全校生徒を対象とした講話は、宇都宮空襲の実情と戦後復興の歴史について学び、郷土史と結びつけた平和学習を推進することをねらいとしている。市役所の職員を招き、全校朝会の時間を活用して実施した。生徒は空襲の実情を数字や当時の市街地の地図、写真を通して学ぶことができた。被害の様子だけでなく、戦後復興の様子を知ることでもでき、平和を希求する人々の切実な願いや、困難から立ち上がる人々の姿を知ることによって現在の平和の尊さ、築き上げてきた平和の重みを感じることができる。

第2学年の生徒を対象にした語り部講演会は、中学生が広島の実態と戦争の悲惨さを認識し、平和の大切さを理解することをねらいとしている。広島や長崎での原子爆弾による被害は、書籍や映像資料を通じて知る機会はあるが、当時を知る人物からの話を聞く機会にはほとんど恵まれていない。語り部の方の話は、原爆被害の様子を具体的に知る貴重な機会である。今回の講演会後に、生徒に感想を記入させた。多くの生徒が平和の尊さや戦争の悲惨さについて真剣に考えたことを文章にまとめており、本活動のねらいが十分に達成されたことが読み取れた。

⑤一条地域学校園あいさつ運動

宇都宮市では小学校と中学校が連携して様々な教育活動に取り組む、地域学校園を組織している。本学校園では、児童生徒が地域社会の一員であることの自覚をもち、活動を通して他者と積極的に関わろうとする人権意識を高めることをねらいとして、あいさつ運動に定期的に取り組んでいる。生徒会執行部や学年委員会、生活委員会、各部活動の部長が中心となり、原則、毎月はじめに活動を行っている。小学校とも連携し、平成28年度は年に3回、担当生徒が出身小学校に出向いて小学生に対してのあいさつを呼びかけた。教職員だけでなく、保護者や地域の方も活動の主旨に賛同していただき、地域全体で協力体制を築いて、活動を推進している。今年度は、昨年度作成したのぼり旗を使用することで啓発活動を行い、あいさつ運動をより多くの方々知ってもらえるように取り組んだ。

人間関係を構築する上でもっとも大切なコミュニケーション能力の基本があいさつである。交流関係にある人に対してだけでなく、初対面の人に対してであっても積極的にあいさつのできる生徒を育てていくことが望ましい。地域が一丸となって活動を支援することで、生徒の中に、地域社会への帰属感が芽生え、より多くの人との関わりの中で生活しているという意識が育まれていくと考えている。また、出身小学校に出向くことで、小学校と中学校の連携を子どもたち自身も感じるができ、小学校から中学校へ進学する際の不安感などが減少すると考えられる。朝の立哨指導時に、少しずつではあるがあいさつを自発的に行う生徒が増えてきた。地域社会と一体となる取り組みの一つとして、来年度も推進していきたいと考えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ 土曜授業 ）